

● 創設(1901年)から2023年度まで全受賞者991人・団体を収録 ●



ノーベル賞 受賞者業績事典

新訂第4版

ノーベル賞人名事典編集委員会 編
A5・850頁 定価9,900円(本体9,000円+税10%)
ISBN978-4-8169-2990-8 2024年1月刊行

- 1901年の創設から2023年度まで、ノーベル賞各部門の全受賞者・団体を網羅した完全な業績事典です。前版『ノーベル賞受賞者業績事典 新訂第3版—全部門855人—』(2013.1刊)以降の受賞者・団体のデータを追補した10年ぶりの最新版。
- 前版刊行後に受賞した約130人を追加、前版収録の受賞者についても最新の情報に更新しました。
- 生没年、国籍、生い立ち、経歴、著作、参考文献などに加え、業績や受賞理由などノーベル賞の受賞に関連する事項についてわかりやすく解説しています。
- 「分野別受賞者名一覧」「事項索引」付き。

*「内容見本」は、裏面をご覧ください。

収録例

文学賞：	1949年	フォークナー, W. C. (アメリカの作家)
	1950年	ラッセル, B. A. W. (イギリスの哲学者・論理学者・社会思想家・平和運動家)
	1954年	ヘミングウェイ, E. M. (アメリカの作家)
	1968年	川端 康成 (日本の小説家)
	2015年	アレクシエーヴィチ, S. (ベラルーシの作家・ジャーナリスト)
物理学賞：	1921年	アインシュタイン, A. (ドイツ、スイスの物理学者)
	1932年	ハイゼンベルク, W. K. (ドイツの物理学者)
	1949年	湯川 秀樹 (日本の物理学者)
	1962年	ランダウ, L. D. (ソ連の物理学者)
	1965年	ファインマン, R. P. (アメリカの物理学者)
平和賞：	1917年・1944年・1963年	赤十字国際委員会 (1863年10月29日に創設)
	1952年	シュヴァイツァー, A. (フランスの哲学者・神学者・医師・音楽家)
	1989年	ダライ・ラマ14世 (中国の政治家・宗教指導家)
	2000年	金 大中 (韓国の政治家)
	2009年	オバマ, B. (アメリカの政治家・弁護士)
	2012年	欧州連合 (ヨーロッパの地域統合体)
経済学賞：	1974年	ハイエク, F. A. (オーストリアの経済学者)
	1976年	フリードマン, M. (アメリカの経済学者)
	1998年	セン, A. K. (インドの経済学者)
	2001年	スティグリッツ, J. E. (アメリカの経済学者)
	2008年	クルーグマン, P. R. (アメリカの経済学者)
化学賞：	1908年	ラザフォード, E. L. N. (イギリス、ニュージーランドの物理化学者)
	1951年	シーボーグ, G. T. (アメリカの物理化学者)
	1977年	プリゴジン, I. (ベルギーの物理化学者)
	2001年	野依 良治 (日本の化学者)
生理学医学賞：	1904年	パヴロフ, I. P. (ソ連の生理学者)
	1912年	カレル, A. (フランスの外科医)
	1962年	ワトソン, J. D. (アメリカの分子生物学者)
	1973年	ローレンツ, K. (オーストリアの生物学者)
	2012年	山中 伸弥 (日本の医学者)
	2018年	本庶 佑 (日本の分子生物学者)

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <https://www.nichigai.co.jp/>

注文書

ノーベル賞受賞者業績事典
新訂第4版

定価9,900円(本体9,000円+税10%)
ISBN978-4-8169-2990-8

冊

取扱書店



9784816929908

『ノーベル賞受賞者業績事典 新訂第4版』内容見本

サイモン, H. A.

Simon, Herbert Alexander

1916.6.15-2001.2.9

経済学賞 1978年 アメリカの経済学者

経歴 1916年6月15日、アメリカ北中部のウィスコンシン州ミルウォーキーに生まれる。36年シカゴ大学卒業。同年同大学研究員、39年カリフォルニア大学行政研究所研究員を経て、42年イリノイ工科大学助教授に就任。翌43年政治学博士号(シカゴ大学)取得。44年イリノイ工科大学教授、49年カーギー・メロン大学教授に就任。69年別科学貢献賞、75年A.M. チューリング賞受賞。78年には経済組織内における意思決定過程に関する研究によりノーベル経済学賞を受賞。37年ドロシヤ・パイと結婚。一男二女がいる。2001年9月、ピッツバーグの病院で死去。享年84歳。

業績・受賞理由 サイモンは行動的科学的組織論の創始者の一人で、人間の思考と問題解決課程のシミュレーションを行い、「人工知能の父」ともいわれる。サイモンの意思決定に関する研究の出発点となったものは、45年に出版した「経営行動」であった。人間が意思決定する際、その決定を行うための知識、予測などはいずれも不完全であり、人間理的行動には限界があることを指摘、意

収録済みの受賞者も
最新情報に更新

ラビン, Y.

Rabin, Yitzhak

1922.3.1-1995.11.4

平和賞 1994年 イスラエルの政治家・軍人

経歴 1922年3月1日、ロシア移民の電気工ネヘミアの子としてエルサレムに生まれる。パレスチナのユダヤ人のための学校であるカドウリ農学校を優秀な成績で卒業す

ス、アラファトとともにノーベル平和賞を受賞。しかし、95年11月4日テルアビブで開かれた中東和平の平和集会会場で、和平路線に反対する極右ユダヤ人学生が凶弾に倒れた。48年に結婚し、息子のユバルと娘のダリア(99年に国会議員に当選)がいる。

業績・受賞理由 93年9月、PLOのアラファト議長との交換書簡によりPLOとイスラエルの相互承認を実現し、パレスチナ暫定自治協定調印に導いた。調印式はワシントンのホワイトハウスで行われ、ホワイトハウスの芝生に立つ姿が印象的であった。94年中東和平での歴史的和解への道を開いたとして、パレス、アラファトとともにノーベル平和賞を受賞。受賞の際には、「賞はイスラエルの全家族、特にアラブとの戦争で亡くなった人、傷ついた人に与えられた」と語った。

著作 ラビン回想録 竹田純子訳 ミルトス 1996

参考文献 遺志—ラビン暗殺からの出発 堅達京子著 日本放送出版協会 NHKスペシャル 1998

◇悲しみと希望—ラビン首相の孫が語る祖父、国、平和 ノア・ベンアルツィ・ペロソフ著、石坂廣訳ミルトス 2013

大江健三郎

オオエ, ケンザブロウ

1935.1.31-2023.3.3

文学賞 1994年 日本の小説家・評論家

経歴 1935年1月31日、愛媛県喜多郡大瀬村(現・喜多郡内子町)に生まれる。母と祖母は村の語り部で大江に日本の神話や歴史をよく語ってきかせたという。45年の終戦をむかえ、学校で新たに教えられた民主主義に共感し上京を決意。18歳で上京し、渡辺一夫教授に憧れ、して東京大学仏文学科へ進学。渡辺一夫先生の恩師と仰ぐ。フランス・ルネッサンス期、特にF.ラブレールを研究、こころきっかけに、執筆活動にはいる。58年黒人兵捕虜と村の子供たちの、のどろろしかも残酷な関係を描いた「飼育」が芥川賞受賞。59年大学を卒業。76年メソコ大学院大学コレヒオ・デ・メヒコで教授。受賞は数多く、主なものとして71年「万延元年のフットボール」で谷村一郎賞、73年「洪水はわが魂に及び」で野間文芸賞、84年「河馬に噛まれる」で川端康成文学賞を受賞。77～85、90～94は芥川龍之介賞の選考委員を務める。94年に三島由紀夫賞選考委員、89年に日本ペンクラブ副会長も務めた。96年ペンシントン大学客員教授、ほか日本文学協会理事や読売文学賞選考委員など担任。94年ノーベル文学賞受賞。ただこの年の文化勲章受章は辞退した。94年夏、40年近い作家生活に終止符を打つと大きく報道されたが、のちに執筆復活を宣言。97年米国芸術アカデミー外国名誉会員に選ばれる。2000年義兄である映画監督の伊丹十三を描いた小説「取り替え子」を刊行。05年には「さような私の本よ!」を刊行し、「取り替え子」「憂い顔の童子」と併せて〈チェンジ

業績・受賞理由 「芽むしり仔撃ち」(1958年)は、戦争がいかんして田舎の生活をかき乱すかを描いた悲劇である。「遅れてきた青年」(61年)ではアメリカ占領下での東京の学生の生活を描く。「個人的な体験」(64年)には生まれつき脳に障害を持つ長男・光との暮らしを描く。「懐かしい年への手紙」(87年)ではダンテの宇宙論と世界観を確信し、森林生活に文化的基盤を築こうとしたが失敗に終わる青年を描いた。今日の人類がおか

前版刊行後10年間に
受賞した約130人を追加

カリコー, K.

Karikó, Katalin

1955.1.17-

生理学医学賞 2023年アメリカ、ハンガリーの生化学者

経歴 1955年1月17日、ハンガリー、ソルトクに生まれる。父は精肉業。ハンガリーの伝統校・セゲド大学に進み、RNA(リボ核酸)合成の研究で博士号を取得。東西冷戦下の1985年、30歳の時にエンジニアの夫、2歳の娘と一緒に共産主義体制下にあった母国を出国、米国に拠点を移す。89年ペンシルベニア大学医学部助教授、95年～2009年同大脳神経外科上級研究員、09～21年同大非常勤准教授、のち非常勤教授。13年ドイツのバイオ企業ビオンテックに移籍し、19年上級副社長に就任。22年より同社外部コンサルタント。この間、21年よりペンシルベニア大学脳神経外科特任教授、同年よりセゲド大学教授も兼任。長女のS. フランシアはボート競技女子エイトの元米国代表で、08年の北京五輪、12年のロンドン五輪と2大会連続で金メダルを獲得した。

業績・受賞理由 受賞理由は、「新型コロナウイルスに対するmRNAワクチン開発を可能にした塩基修飾法の発見」。共同受賞したD.ワイスマンとK.カリコーはペンシルベニア大学医学部の同僚であった1997年頃コピー機の前で偶然知り合うと、m(メッセンジャー)RNAの医薬品利用を目的とした共同研究を始めた。mRNAを投与、体内で治療効果のあるタンパク質、抗原を生成させるという考えは、投与したmRNAが分解されやすく、また炎症反応を引き起こすことから実用化が難しいとされてきた。ワイスマンとカリコーは2005年、mRNAの構成要素であるウリジンを修飾ウリジンであるシュードウリジンに置換したRNAを用いることでToll様受容体による免疫反応を抑えられること、08年、修飾mRNAが生体内で効率良くタンパク質を作り出せることを発見すると、12年、マウスによる動物実験で、高効率でタンパク質を生成できることを実証、RNA(mRNA)ワクチンの開発基盤を作ることに成功した。20年以降のコロナ・パンデミックで新型コロナウイルス対策の切り札として開発されたワクチンにmRNA技術が用いられ、早期のワクチン開発に大きく貢献、ノーベル生理学医学賞を受賞した。